



# 高西小だより

H24, 10, 17(水) 校長:古屋 N013

学校教育目標

夢を切り拓く

心豊かで

たくましい子ども

## 日本人の心 「惻隱の情」!

今、iPS細胞(人工多能性幹細胞)の開発により京都大学の山中伸弥教授がノーベル医学生理学賞を受賞し、一躍「時の人」になっています。

9日にはご夫婦の記者会見の様子がTV放映され、お二人の思いが心温まる言葉で至るところに表現されていました。山中教授のこれまでの研究生活について「何十回トライしても失敗ばかりのこともしょっちゅうだった。やめたくなったり、泣きたくなったりしたこともあったが、家に帰ると笑顔で迎えてくれる。家族の支えがなければ、続けられなかった。」と振り返っていました。また、妻の知佳さんは、マラソンに触れ、「疲れているのにあえて走ろうとする。街で見かけたら、ほどほどにするよう声を掛けてあげて。」と、夫を思い遣るとても温かさの感じる言葉で会見をしていました・・・。

今日、日本人に忘れられつつある言葉として「惻隱の情」(そくいんのじょう)という言葉があるそうです。この言葉は、今も大きな問題として取りだたされている「いじめ問題」に関する寄稿の中にあった言葉です。

これは孟子の言葉ですが、孟子は、親の子を思う心を、「惻隱の情」とし、これを社会生活の全てに及ぼすように説いたと言われ、相手の心情を深く理解する事を意味しています。また、孟子の師である孔子が説く人の道として最も大切な「仁」を噛み砕いて、他人の苦痛や不幸、苦しみを自分の身にふりかかったもののように同情したり共感したりする思いやりの心であるとも解されています。

寄稿には、『日本はかつて世界に類のない惻隱の国であり、惻隱は日本人の心であった。この「惻隱の情」が薄れ消えかかっている。この人間の温かさ「惻隱の情」を児童生徒が主体的に自覚すれば「いじめ」の減少の一助になる』、そして更に、「それは私ども大人が背中ですすよう心掛けなければならない。」とありました。

山中教授ご夫婦の記者会見での言葉と「惻隱の情」。丁度、機を同じにしたせいかも知れませんが、私には、この二つの事が現在の社会を象徴した姿で強く結びつきました。子どもたちはこれからの厳しい時代を乗り越えていかなければなりません。私たち大人も同じ時代の流れの中で生きています。「他人の苦痛や不幸、苦しみを自分の身にふりかかったもののように同情したり共感したりする思いやりの心」である「惻隱の情」。子どもたちへも、そして家族、同僚など周囲の人へもこの日本人の心を私たち大人からそっと心寄せて生きていきたいものです。そして、やがては子どもたちの心の中へと。

## 今年も豊作! 田んぼの学校で稲刈り! (5年生)

14年目を迎えた田んぼの学校の稲刈り(5日)と脱穀(15日)がすがすがしい秋空の下で行われました。

稲刈りでは、山本さんのお父さんをはじめ小池地区の方々のご指導を受けながら刈り取りから「牛」架けまでを行いました。稲を結ぶ紐は、去年の稲藁を昔の「マンガ」という道具できれいにし、湿したものを(菅縄)を使いましたが、縛るのがなかなか大変のようでした。

脱穀では、全員が一束一束ハーベスターにかけ、貯まった粉袋をみんなで力をあわせて運びました。最後に牛の足をみんなで片づけて作業は終了となりました。最終となる次は、山本さんを招いての収穫祭となりますが、どんなお米の味になるでしょうか。とても楽しみです。



去年の稲藁を使います。



ここを押さえて結ぶんだよ。束を多い方と少ない方に分けて!



最後に牛の足を片づけて終了。



流すように押し込んで!



わあ~重い!



最後に牛の足を片づけて終了。



## 不審者進入を想定した 避難訓練を実施！

10日、北杜警察署から深沢巡査、高根駐在所の相川さん、スクールサポーターの中田さんをお招きして訓練が行われました。深沢さんには、不審者役をして頂きましたが、その迫力に子どもたちも先生方も真剣そのものでした。

手が届かない距離でね。先生方が脚立やさすまでで捕り押さえようと汗びっしょりです。

秋の味覚

満喫

！



### かぼちゃケーキづくり（2年生）

11日の2～3校時、育てたかぼちゃを使ってケーキを作りました。かぼちゃは、今年大豊作で、たくさん収穫することができました。食べてみるとその甘さにびっくり！食後のみんなの笑顔には、満足感が漂っていました。今年は、その他にもスイカやトマト、ピーマン、ポップコーンを育てました。



### ごはん味噌汁づくり（5年生）

家庭科の「ごはんとみそしるをつくろう」という単元で調理実習をしました。味噌は、何と5年生が1年前に作った手前味噌です。やはり一味違ってとてもおいしかったです。5年生は、いよいよ明日18～19日と自然教室に行きます。野外炊事でご飯を炊きますので、丁度よい事前体験となりました。でも、ガスではなく薪で炊きますので、さてその出来映えはどうなるのでしょうか？



### かぼちゃケーキづくり（1年生）

16日、1年生も育てたかぼちゃを使ってケーキを作りました。グループごとの活動を安全にスムーズに出来るようにボランティアさんを募ったところ7人ものお母さん方に来て頂きました。お陰様で、こんがり焼けたおいしいかぼちゃケーキが出来上がり、1年生は大満足でした。帰りには、校長室でお手紙付きのあったかいケーキを頂きました。



「生きてるって…」

葉 祥明

空を見上げるよ  
白い雲が浮かんでる  
お日さまが輝いている  
この世は美しい！  
生きてるって不思議！  
泣いても 笑っても  
歌っても 倒れても  
何が起つと起つるまいと  
全て うれしいこと

ネコがいる 犬がいる  
小鳥がいる 虫がいる  
大好きな家族がいて  
仲の良い友達がいる  
皆がいるからうれしい  
それもこれも僕がこうして  
生きてるから  
生きてるって  
すごい！



※葉 祥明（よう しょうめい）

熊本県出身 画家・絵本作家・詩人。『風とひょう』でポローニャ国際児童図書展グラフィック賞受賞。  
北鎌倉に「葉祥明 美術館」を開館。